科目名			担当教員	
精神医学			高野 毅久／西尾 雅明／岩寺 良太	
科目コード	科目単位	スクーリング単位	履修方法	配当年次
CQ4140	4	2	RorSR (講義)	3年以上
生成 AI 利用レベル		レポート ： C	試験（スクーリング含む） ： C	

科目の概要

■科目の内容

精神障害は紀元前の古くから知られていましたが、科学的な近代精神医学が確立されたのは約 1 世紀前のことです。そして約 60 年前に向精神薬が発見されて以来、精神障害の治療は著しく進展し、ここ四半世紀は、精神障害の主座としての脳に関する検査法や研究においてもめざましい発展を示してきました。本科目では、精神医学、精神医療の成り立ちから説明し、精神医学関連の基礎知識、診断の手順、各種精神障害とその治療法について理解することを目的とします。さらに、病院精神医療や地域精神医療についても理解を深めます。現代は心の時代ともいわれますが、精神医学の方法や精神障害についての学習を通して、疾患としての精神障害の理解はもちろんのこと、心を科学的に考える方法も身につけるように心掛けましょう。

■到達目標

１）精神疾患の診断におけるプロセスを順序よく説明できる。
２）代表的な精神疾患とその治療について説明できる。
３）わが国における病院精神科医療と地域精神科医療の現状について説明できる。
４）精神科医療における人権擁護の重要性について説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人と社会の理解力」「俯瞰的な分析力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 60%＋スクーリング評価 or 科目修了試験 40%

■教科書・参考図書

【教科書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 精神保健福祉士養成講座［専門科目］1 精神医学と精神医療』中央法規出版、2021 年

（最近の教科書変更時期）2023 年 4 月

（スクーリング時の教科書）上記教科書を参考程度に使用し、配付する資料を中心にして講義を行います。

【参考図書】

１）松崎朝樹 著『教養としての精神医学』KADOKAWA、2023 年
２）松本卓也・野間俊一編著『メンタルヘルス時代の精神医学入門』ミネルヴァ書房、2020 年
３）西尾雅明 著『ACT 入門　精神障害者のための包括型地域生活支援プログラム』金剛出版、2004 年

４ ）その他精神医学・精神医療関連書

スクーリング

※本科目は３名の教員がスクーリングを担当します。

■スクーリングで学んでほしいこと

本科目では、精神保健福祉士の仕事を行うにあたって必要とされる精神医学の知識を体系的に学ぶことを目的としています。スクーリングでは、代表的な精神疾患とその治療、病院精神科医療と地域精神科医療および精神科医療における人権擁護について具体的に学びます。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	精神疾患総論①	精神医療の歴史・精神現象の生物学的基礎
2	精神疾患総論②	精神障害の概念・成因・分類・診断・検査
3	代表的な精神疾患①	［F0］器質性精神障害［F1］精神作用物質関連精神障害
4	代表的な精神疾患②	［F2］統合失調症［F3］気分障害［F4］神経症性障害
5	代表的な精神疾患③	［F5］生理的・身体関連障害［F6］パーソナリティー障害
6	代表的な精神疾患④	［F7］精神遅滞［F8］心理的発達障害［F9］小児期青年期の障害
7	精神疾患の治療	精神科治療総論 ・ 薬物療法 ・ 精神療法 ・ 脳刺激法
8	精神医療機関の治療の実際①	精神科リハビリテーション・外来治療・在宅医療
9	精神医療機関の治療の実際②	入院治療・医療観察法・精神保健福祉士
10	精神医療と保健 ・ 福祉の連携	治療導入・再発予防・地域生活に向けた支援
11	精神医療の動向	精神疾患患者の動向 ・ 医療制度改革と精神医療
12	まとめ	
13	スクーリング試験	

■講義の進め方

板書と ICT を活用し資料を配付します。適宜教科書を参照する場合があります。講義中は、講義に集中してあとから見直すようにしてください。

■スクーリング　評価基準

授業への参加状況（20%）＋スクーリング試験（80%）で評価。講義で学んだ内容を踏まえ、試験問題に沿って自身の見解をどれだけ論述できるかを問います（教科書・ノート・資料持込可）。持込可ですので十分な論述が要求されます。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

事前に教科書を読んで分からないところを明らかにし、不明な点は参考図書などを参考にして調べてください。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	精神疾患総論①	精神医療の歴史・心の生物学的理解・精神障害の概念	Bio/Psycho/Social の多次元にわたる精神疾患の成り立ちを理解する基礎
2	精神疾患総論②	疾患の成因と分類・診断・検査	従来診断における外因/内因/心因の成因分類と ICD、DSM の操作的診断分類のちがい
3	代表的な精神疾患①	器質性精神障害・精神作用物質関連精神障害	従来診断の外因性精神障害/操作的診断の［F0］認知症［F1］アルコール・覚醒剤［G40］てんかん
4	代表的な精神疾患②	統合失調症・気分障害	従来診断の内因性精神障害/操作的診断の［F2］統合失調症［F3］気分障害
5	代表的な精神疾患③	神経症性障害・生理的障害	従来診断の心因性精神障害/操作的診断の［F4］神経症［F5］食・睡眠・性・産褥に関する障害
6	代表的な精神疾患④	パーソナリティー障害・精神遅滞	［F6］パーソナリティー障害［F7］知的障害
7	代表的な精神疾患⑤	心理的発達の障害・小児期青年期の行動・情緒障害	［F8］自閉症スペクトラム障害［F9］ADHD・行為・情緒障害
8	精神疾患の治療①	治療総論・身体療法（薬物・脳刺激）	Bio/Psycho/Social の多次元にわたる治療・治療の原則/薬物療法・副作用・脳刺激療法
9	精神疾患の治療②	精神療法	精神療法とは・種類と内容
10	精神疾患の治療③	精神科リハビリテーション	精神科リハビリテーションとは・プロセスと諸技法
11	治療の実際①	外来治療・在宅医療	入院医療中心から地域生活中心へ・アウトリーチ
12	治療の実際②	入院治療・医療観察法における治療	本人の同意に基づかない入院治療の法的根拠・人権擁護・行動制限最小化、及び医療観察法
13	治療の実際③	精神保健福祉士・協働する職種	精神保健福祉士の役割・他職種との協働
14	医療・保健・福祉の連携	治療導入・再発予防・地域生活に向けた支援	早期介入・救急・認知症初期集中支援・服薬自己管理支援・地域包括ケアシステムなど
15	精神医療の動向	患者動向・医療制度改革・医療機関の機能分化	患者数・疾患・年齢・平均在院日数の推移・医療制度改革・診療報酬・機能分化・クリティカルパスなど

■レポート課題

本科目の論述式レポートは、それぞれ別の提出台紙に貼り付けて提出してください（2 冊必要）。

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	我が国の入院治療の辿った歴史、法制度の変遷を簡潔にまとめ、その問題点を指摘し、「入院医療中心から地域生活中心へ」の理念の実現が、どのような形で図られようとしているのかについて論述せよ。
3 単位め	統合失調症、気分障害、認知症におけるそれぞれの病型、症状、経過、予後、検査、治療について、診察の手順を踏まえながら論述せよ。
4 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

【1・4 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【2 単位めアドバイス】

我が国の精神保健福祉施策の理念は、「入院医療中心から地域生活中心へ」です。1900 年に精神病者監護法が成立し私宅監置が合法化された頃は、入院しようにもベッドがありませんでした。その後、我が国の精神科病床数は増え続け、国の施策にもかかわらず、なかなか減りません。本来、精神科医療は、生活する場所を変えずに受けられるのがいいはずなのに、「地域生活中心へ」が未だに理念である理由は何か。直接的には教科書の第 4 章、5 章に書かれていますが、講義で学んだことを振り返りながら、Bio/Psycho/Social の多次元にわたって考察すると、我が国の精神医療の未来を考える拠り所が有機的連関を持って把握されると思います。

【3 単位めアドバイス】

精神疾患の原因は、その大半が未だ不明です。また、原因がわかっていると考えられる認知症でも、脳の障害から精神症状のすべてを説明することは出来ません。このような疾患に対して、精神医学は、身体医学とはちがった独特の診断法として、外因／内因／心因といった分類を考え、診断に外因性⇒内因性⇒心因性という順序＝構造を与えました。ICD や DSM といった現行の操作的診断法は、この構造を廃して、すべての精神障害を一覧表のごとく同一平面上に並べましたが、操作的診断法を把握し実施するのにも、従来診断法は有用です。直接的には、教科書の第 1 章、第 2 章に書かれていますが、実際に自分が、ひとりの患者さんを目の前にしている場面を想定し、統合失調症、気分障害、認知症についてまとめてみることで、知識が立体化し、診断から治療やリハビリテーションの方向性までが、一貫したパースペクティブで見えてくると思います。

科目修了試験

■評価基準

まず課題の理解が大切です。次に課題に対する解答が指定のテキストの内容理解を基礎としているかどうかが大切です。したがってテキストにある重要な用語や概念を用いて適切に答えているかどうかが評価の上で重要になります。